

石田尚志
BILLLOWING
LIGHT: ISHIDA
TAKASHI
渦まく光
横浜美術館
2015.3.28-
5.31

YOKOHAMA MUSEUM OF ART

石田尚志 渦まく光

Billowing Light: ISHIDA Takashi

2015年3月28日(土) - 5月31日(日)



横浜美術館

PRESS RELEASE



《燃える椅子》2013年/ビデオ ©Takashi Ishida

絵画／映像 —「越境」のアーティスト、初の大規模個展

スクリーンに映し出されたまっさらな壁や紙の上に、植物のように伸びていく線。その線は光の渦となって画面を覆いつくし、さまざまに様態を変え、また消えてゆきます。石田尚志は、いしだたかし 絵画制作のプロセスである「描く」という行為そのものに着目し、それを映像メディアによって作品化します。

多くの作品で石田が用いるのは、「ドローイング・アニメーション」という手法です。抽象的な線を少しずつ描いてはコマ単位で撮影するという行為を反復して、ムーヴィングピクチャー 「動く絵」を創り上げます。映像のなかで描かれ続ける、終わりのない絵画。その制作過程は、目に見える、あるいは見えないさまざまな要素との対話の軌跡でもあります。テーブルや椅子、傍らの窓から差し込む陽光の移ろい、描き続ける作家自身の身体、そして制作現場に響いていた音や音楽。膨大な画像の編集作業を経て、再び映像としての「時間」を獲得した作品は、さながら線描で奏でられる音楽のようです。そこには、「絵が動く」という映像メディアが生まれながらもつ視覚的魅惑が凝縮されています。

この展覧会は、昨今、現代美術および映像の領域で大きな注目を集める石田尚志にとって初めてとなる大規模な個展です。過去20年間の代表作に新作の映像インスタレーションを加えた約30作品に、パフォーマンスや上映会などの多彩な関連イベントも交えて、その創作活動を俯瞰します。絵画、映像、音楽、身体表現など異なる表現形式を往還する、独創性に富んだ石田の芸術の魅力をご堪能ください。

「石田尚志 渦まく光」特設サイトにてインタビュー動画をご覧いただけます。 <http://yokohama.art.museum/special/2014/ishidatakashi>

石田 尚志

ISHIDA Takashi

画家／映像作家。1972年東京都生まれ。



《海の壁ー生成する庭》制作風景（横浜美術館、2006年） ©Takashi Ishida

1990年より本格的な絵画制作、92年頃より映像制作を始める。

以降、愛知芸術文化センターオリジナル映像作品《フーガの技法》（2001）、横浜美術館での滞在制作作品《海の壁ー生成する庭》（2007）などで注目を集める。

2007年に五島記念文化賞美術新人賞受賞。現在、多摩美術大学准教授。

近年の展覧会に「躍動するイメージ。石田尚志とアブストラクト・アニメーションの源流」（2009、東京都写真美術館）、「MOTコレクション 特集展示 石田尚志」（2011、東京都現代美術館）、「ダブル・ヴィジョンー日本現代美術展」（2012、モスクワ市近代美術館ほか）、「イメージとイリュージョン：横浜美術館所蔵 ビデオ・インスタレーション作品展」（2014、シンガポール美術館）など。また、「トロント国際映画祭」（2006）などの国際映画祭への参加、パフォーマンスや他分野の表現者とのコラボレーションなど、ジャンルを横断した活動も展開している。

本展のみどころ

1 いまもっとも注目される作家のひとり、石田尚志。初の大規模個展。

国内の主要な公立美術館に作品が収蔵され、国内外から注目を集める石田尚志。石田にとって初の大規模個展となる本展では、初期作から最新作まで約30作品、80余点によって、その20年余の創作活動を俯瞰します。

2 石田のキャリアと切っても切れない横浜美術館。

横浜美術館は、石田が2000年に映像作家仲間と初めて自主企画上映会を行った場所です。そして2006年には当館で4ヶ月にわたる滞在制作を行い、そこで生み出された《海の壁ー生成する庭》《海の映画》の2作品は、あわせて世界15カ国、30カ所以上の展覧会・国際映画祭で展示・上映され、石田の代表作となりました。その活動の折にふれて重要な意味を担ってきた横浜美術館が、またしても石田のステップアップの舞台となります。

3 注目の最新作を展示。

石田の制作に頻繁に用いられるドローイング・アニメーションの手法は、「描いては撮る」という作業の反復に膨大な時間を要します。石田はその手法を用いた複数の作品を含む新作を、本展に向け制作中です。これまでのキャリアの集大成であり、かつ今後の展開を予見するものとなる最新作にご期待ください。

4 現役作家の醍醐味。会期中に行われる作家自身によるイベントに注目。

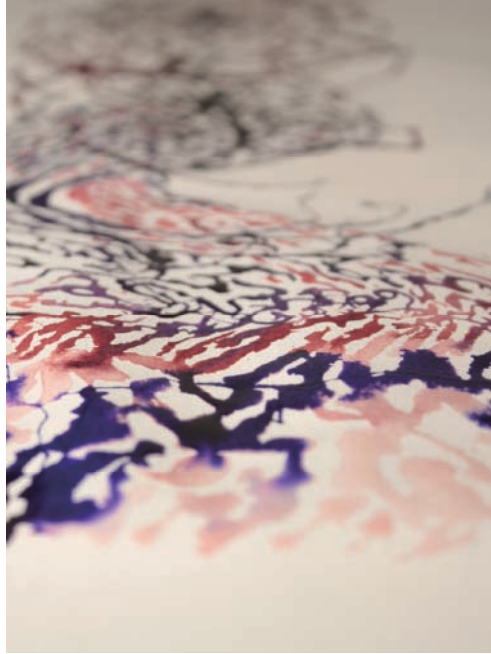
さまざまな領域を横断する石田尚志の活動の全貌をつかみ取るには、「展示」のみでは十分ではありません。石田の代名詞であるライブドローイングをはじめ、作家自身が案内役となる上映&トークやワークショップなど、さまざまなイベントが催されます。

PRESS RELEASE

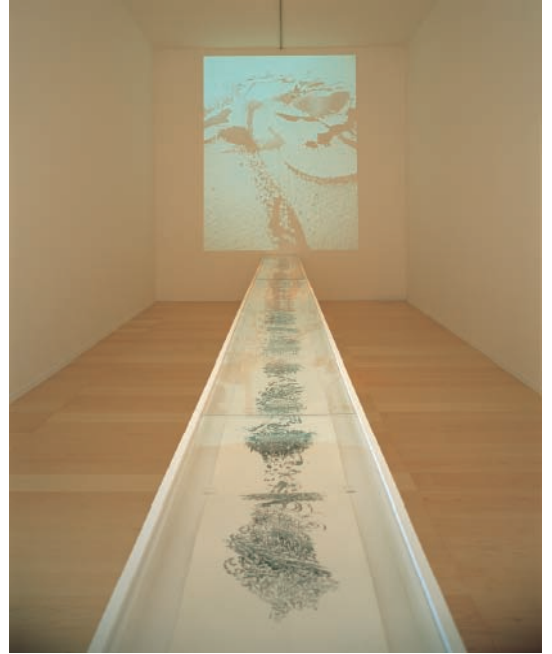
展覧会の構成

第1章 絵巻

巻物状の紙に少しずつ線を描いてはコマ撮りする、という作業の反復によって、独特の渦まくような描線が増殖する映像が生まれます。絵画と映像の融合＝「動く絵」をこの上なくシンプルに体現するこのシリーズは、石田の映像作品の原型です。作家が20年来、折にふれては手がけてきた「絵巻」の数々を展示します。



《色の波の絵巻》2010年/ビデオ
©Takashi Ishida



《海坂の絵巻》2007年/ビデオインスタレーション
(横須賀美術館での展示風景、2007年)
©Takashi Ishida

第2章 音楽

抽象的形態がリズムカルに踊り反復する石田の作品は、さながら線描で奏でられる音楽のようです。その映像作品のいくつかは、具体的な楽曲をモチーフとして制作されています。J.S. バッハの曲を映像に翻案した石田の代表作のひとつ《フーガの技法》(2001)に加え、映像制作の最初期にあたる作品も紹介します。



《フーガの技法》(原画) 2001年/インク・鉛筆、紙
©Takashi Ishida

第3章 身体

作品制作と並行してライブ
ドローイングの活動も展
開してきた石田ですが、
映像作品においては長らく
自身の姿を画面から排除
してきました。しかし近年、
線描行為そのものを映像
の中に取り込んだ作品が
続々と生み出されています。
自身の動きと描かれた線
との関係性を前面に押し
出す石田の新境地を紹介
します。



《浜の絵》2011年/ビデオ ©Takashi Ishida



《海中道路〈行き・帰り〉》2011年/ビデオ ©Takashi Ishida

第4章 部屋と窓

椅子や机、窓といったオブ
ジェが配された室内を舞台
に、壁や床へのドローイ
ングが展開します。窓から
の陽差^{ひざ}し、あるいは火と
いったモチーフが線描と
絡み合い、空間に光の渦
が立ち現れます。複数の
画面を並列するなど、近年
一段と複雑化、大規模化
しつつある「部屋」のシ
リーズを、複数の新作を
含め展示します。



《光の落ちる場所》(仮題) 2015年/ビデオ
©Takashi Ishida



《海の壁—生成する庭》2007年/ビデオインスタレーション
(東京都現代美術館での展示風景、2011年) ©Takashi Ishida, Photo: Haruyuki Shirai



《燃える椅子》2013年/ビデオ ©Takashi Ishida

PRESS RELEASE

関連イベント

1. 上映&トーク (2回シリーズ)

本展で展示されない作品も含めた石田尚志の映像作品を上映。(各回、当館学芸員またはゲストとの対談。詳細は、後日特設サイトにて発表)

出演：石田尚志

日時：[第1回] 4月19日 (日)

[第2回] 4月26日 (日)

いずれも 14:00～15:30 (13:30 開場)

終了後、作家による展覧会カタログのサイン会を実施します。

会場：レクチャーホール

定員：240名 (各日 12:00 より総合案内で整理券配布)

参加費：無料

2. ライブドローイング「横浜絵巻」

石田尚志のもう一つの顔である、ドローイングによるパフォーマンス。美術館前広場を舞台に、即興で「横浜絵巻」を描きます。

出演：石田尚志

日時：5月5日 (火・祝) 14:00～15:00

会場：美術館前広場

(雨天の場合は美術館正面パルティコ)

参加費：無料

(事前申込不要、直接会場にお越しください)

3. 石田尚志ワークショップ「映像の光」

映画用の16ミリフィルムを使って、石田尚志の映像と光の世界を体験します。

講師：石田尚志

日時：5月2日 (土) 15:00～19:30 (休憩含む)

会場：市民のアトリエ

対象・定員：12歳以上・15名 (抽選)

参加費：2,000円 (会期中に使える観覧券付)

申込方法：往復はがき、または石田尚志展特設サイト「関連イベント」申込フォーム

申込締切：4月13日 (月) 必着

4. 子どもの日ワークショップ「動く絵をつくろう！」

映画用の16ミリフィルムの上にペンで自由に描きます。それを映写機にかけてスクリーンに映すと…。「映像」の原理を親子で楽しく体験するワークショップです。

講師：石田尚志、子どものアトリエスタッフ

日時：5月5日 (火・祝) 10:00～11:30

会場：子どものアトリエ

対象・定員：小学生とその保護者・20組 (1組4名まで、抽選)

参加費：無料

申込方法：往復はがき (詳細は石田尚志展特設サイト「関連イベント」にて)

申込締切：4月13日 (月) 必着

5. 学芸員によるギャラリートーク

日時：4月10日 (金)、4月24日 (金)、5月8日 (金)、5月22日 (金)

いずれも 15:00～15:30

会場：石田尚志展展示室

参加費：無料 (事前申込不要、当日有効の観覧券が必要)

6. 夜の美術館でアートクルーズ

閉館後の美術館で、学芸員の解説つきで展覧会をゆったり鑑賞するプログラム。本展で展示されない作品や関連資料もご覧いただけます。

日時：①4月18日 (土)

②5月13日 (水)

いずれも 19:00～21:00 ※①②は同内容

会場：石田尚志展展示室

対象・定員：18歳以上・各回30名 (抽選)

参加費：3,000円

申込方法：石田尚志展特設サイト「関連イベント」申込フォーム

申込締切：①3月19日 (木) ②4月16日 (木)

7. 展覧会・ココがみどころ！

横浜美術館のボランティアが、展覧会の魅力をコンパクトに紹介します。

担当：横浜美術館ボランティア
(教育プロジェクト)

日時：4月11日(土)以降の毎週土曜日、
11:00～11:15、14:00～14:15

会場：ランドギャラリー

参加費：無料

※追加の実施も予定しています。決定次第、
特設サイトでお知らせします。



《白い部屋》2010年/ビデオインスタレーション(タカ・イシイギャラリーでの展示風景、2010年)
©Takashi Ishida, Courtesy of Taka Ishii Gallery, Photo: Kenji Takahashi

お得な情報

2015年4月4日(土)
**「みなとみらい21 さくらフェスタ2015」を
記念し、観覧無料！**

横浜市西区で行われる「みなとみらい21 さくらフェスタ2015」を記念して、4月4日(土)はどなたでも無料で展覧会をご覧いただけます。(横浜美術館コレクション展も無料です)

こどもの日限定！
**5月5日(火・祝) ご来館の
お客様にスペシャルプレゼント！**

こどもの日の祝日を記念し、5月5日(火・祝)にご来館のお客様全員に横浜美術館オリジナルポストカードをプレゼント。さらに先着20名様には、石田尚志サイン入りカードをプレゼントします。
※ポストカードの絵柄は選べません。

**石田尚志展覧会カタログサイン会
開催！**

4月19日(日)、4月26日(日)の「上映&トーク」終了後に、レクチャーホールロビーにて、展覧会カタログのサイン会を開催します。展覧会カタログが作家のサインで貴重なコレクターズアイテムに！
※事前購入のカタログも対象です。

石田尚志 渦まく光

Billowing Light: ISHIDA Takashi

会期 2015年3月28日(土) — 5月31日(日)

休館日 木曜日

開館時間 10:00~18:00 (入館は17:30まで)

主催: 横浜美術館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、読売新聞社

協力: みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社、タカ・イシイギャラリー

※平成26年度 [第18回] 文化庁メディア芸術祭協賛事業

観覧料

	当 日	前売・団体
一般	1,500円	1,400円
大学・高校生	900円	800円
中学生	600円	500円
小学生以下	無 料	無 料

取扱い | 横浜美術館 (前売はミュージアムショップ)
セブン-イレブン店内マルチコピー機「セブンチケット」
スマートフォン・チケット「ティクシー」

※前売券販売期間: 2015年1月3日(土)~3月27日(金)

※横浜美術館ミュージアムショップ販売前売券に限りオリジナルグッズプレゼント付き

※団体は有料20名以上(要事前予約)

※2015年4月4日(土)は無料

※毎週土曜日は、高校生以下無料(要生徒手帳、学生証)

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料

※本展チケットでご観覧当日に限り、横浜美術館コレクション展もご覧いただけます

※その他の割引料金については別途、お問合せください

横浜美術館

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1

TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317

<http://yokohama.art.museum>

プレスリリースお問合せ

横浜美術館 広報担当 (宮野、藤井、窪田)

TEL: 045-221-0319 FAX: 045-221-0317

E-mail: pr-yma@yaf.or.jp